

交換留学報告書

* この報告書に記載される内容は多文化社会学部のウェブサイト等に記載いたしますので、予めご了承ください。

氏名	江崎 日菜	学年(渡航時)	3 年
派遣先大学	キール大学		
国・地域	イギリス		
派遣期間	2025 年 9 月 ~	2026 年 1 月	

履修科目

1 学期目	
履修科目	授業内容
British Cultural Studies	イギリス王室や政治、成り立ちや文化など、現在のイギリスを理解するための、イギリスに関する様々なことを学ぶ。
Contemporary Social Theory	それぞれの社会学理論の繋がりを意識しながら、学ぶ。
History in Media and Film: The Presentation of the Past in Contemporary Culture	現代、放送されるテレビ番組や映画などのメディアにおいて、過去の歴史についてどのように表象しているか分析し、その背景や意図を探る。

留学レポート(1,500 字以上)
<p>キール大学で、現地の学生やその地域で生活している人々との交流を通して、自身がアジア人であること日本人であることなど、自身のアイデンティティを意識するという貴重な経験をすることができた。日本で生活していると、自身が日本人であることやアジア人であることを認識させられることはほとんどない。しかし、イギリスでは、大学が比較的田舎な地域に位置していたこともあってか、ローカルバスに乗るとほかの乗客から視線を集めたり、スーパーでは小さな子供に見つめられたりすることが多々あった。外国人としてその国で過ごす経験は、非常に貴重なものであると感じた。また、イギリスで社会学を学ぶことによって、イギリスの社会や文化をより深く理解することができたと思う。特に、イギリスに今でも階級制度の認識が残っているのは興味深かった。階級は収入には直結しないが、職業で判断され、それが、服装や買い物する店、好むスポーツ、言葉遣いなど、文化的な部分にまで影響を及ぼしている。現在では、労働者階級でも大学に行かせる家庭が多くなってはいるが、その行く大学によっても、階級の認識があるようだった。趣味嗜好などの文化的な側面は家庭内で再生産されていくため、階級の認識を完全に取り扱うのは難しい事なのだと理解した。日本においても、「(家)柄が悪い」というような言葉は存在するし、それが収入に関わらず用いられるものではあるが、中流階級、労働者階級など、区切りがあるわけではなく、日本社会との違いを認識した。</p> <p>また、イギリスをはじめ、ヨーロッパでは古い建築物が今でも残っており、街を見て歩くだけで楽しめるが、古いものを修理して使い続ける傾向があり、設備が古いことが多かった。建築物だけでなく、昔のバンドを好んで聴いたり、ビンテージショップが多かったりなど、音楽やファッショնも古いものを好む傾向があるように感じた。日本は、地震が多いこともあり、耐震性のためにも、建物には新しい技術を取り入れる必要があるが、そのほかにおいても、快適さや流行を追い求める傾向があるように感じる。私の固定概念に西洋が「進んでいる」というような認識があつたが、様々な技術面において、速さや快適さを追い求める東アジアの先進性を認識した。一方で、性やジエンダー観、身体的な障がいがある人の生きやすさなどは、見習うべきところが多く感じた。日本では性教育はセンシティブな事として扱われる傾向があるが、イギリスではよりオープンな話題であり、セメスター初めのフレッシュフェアでは、性教育のブースでコンドームが無料配布されていた。学生たちに茶化すような雰囲気もなく、日本の性教育のあり方を見直す必要性を感じた。また、イギリスでは、性的マイノリティや身体障がい者がマイノリティに感じられない程、当たり前に多様性が認められていることも印象的だった。</p> <p>留学を通して、日本にいたら当たり前で気が付かなかった快適さが、日本以外では当たり前でないことを学び、イギリスでは、ただルールに従うだけでなく、考えて主張することが日本以上に求められると感じた。日本では、ルールを知っていて、それに慣れていれば、深く考える必要もなく生活することができる。しかし、イギリスでは、待つ</p>

ているだけでは、周りは自分の望みには応えてくれず、自身の考えたことを主張する必要があることを学んだ。留学で得られるものは語学力の向上だけでなく、多様な価値観や社会に触れる事による、柔軟な考え方や広い視野、客観視する事で日本の良さや課題に気がつけることだと思う。また、これまでの学部での学びがあったから、留学先で起こる様々なことをただの経験で終わらせず、学びに変えることができたと思う。さらに、日本人の友人の存在は、自分の考えを日本語で整理し、言語化する過程において重要であった。留学前と後では、物事の見方や考え方は変化しており、これから的人生における選択肢の幅が広がったと感じている。

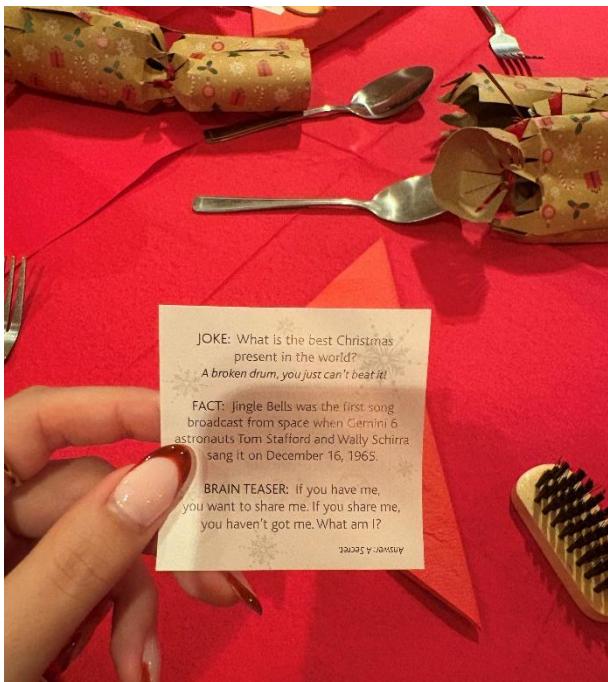
留学中の写真(5枚程度) ※写真のキャプションも入れること



アフタヌーンティーをした際の写真



パブでごはんを食べた時の写真



ソサエティのクリスマスディナー



クリスマスマーケット



留学生交流会